

1. 基本情報

- (1) 国名： フィリピン共和国（以下、「フィリピン」という。）
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名： コタバト市（約 32 万人）
- (3) 案件名： コタバト市における上水道整備計画（The Project for Improvement of Water Supply in Cotabato City）
- (4) 計画の要約： 本計画は、バンサモロ・ムスリム・ミンダナオ自治地域の首都機能を果たすコタバト市において、上水道施設の整備を行うことにより、安全かつ安定的な給水サービスの改善を図り、もってミンダナオにおける平和と開発に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

フィリピンの南部に位置するミンダナオ地域では、フィリピン政府とイスラム反政府勢力との間で 40 年以上に及ぶ紛争が続いていたが、近年になりバンサモロ基本法の成立（2018 年 8 月）やバンサモロ暫定自治政府の発足（2019 年 2 月）が実現するなど、和平プロセスは大きく進展した。しかし、長年にわたった紛争の末、同地域は開発の波から大きく取り残されており、2025 年のバンサモロ自治政府樹立を控える中、ミンダナオに真の平和が定着するためには、人々が平和の配当を実感できるようにする観点からも、持続的発展のための経済開発が不可欠である。

また、ミンダナオ和平の深化は、フィリピンのみならずインド太平洋地域の成長と繁栄、そしてテロの温床を残さないためにも極めて重要であり、そのため我が国は「日・フィリピン共同声明」（2023 年 2 月）において、和平プロセスの進展に応じた支援を行う旨表明している。本計画は、バンサモロ・ムスリム・ミンダナオ自治地域（以下、「BARMM」）の首都機能を果たすコタバト市において、学校や病院といったインフラ施設など将来の地域開発を支えるベースとなる上水道施設の整備を行い、同国のミンダナオにおける社会経済開発を支えることにより、和平プロセスの進展を後押しするものであり、外交的意義は大きい。

- (2) 当該国における上水セクター／コタバト市の開発の現状・課題及び本計画の位置付け

40 年以上にわたる紛争の爪痕が残る BARMM では、貧困率が全国平均 18.1%に対して 37.2%（Philippine Statistics Authority (PSA) 2022 年）と高く、また、安全な水へアクセス可能な人口は全国平均 93%に対して 73%（同 2021 年）に留まるなど基礎インフラを含めた社会経済開発も遅れている。

コタバト市は、BARMM において首都的な機能を果たしており、約 32 万人の人口（PSA 2020 年）を擁する。コタバト市及び周辺地域の水道事業は、コタバト都市圏水道区（MCWD : Metro Cotabato Water District）が担っており、約 19 万人に対して約 40,000m³/日を給水しているが、給水普及率は約 46%（MCWD 2021 年）に留まっており、全国の給水普及率 66%（Joint Monitoring Programme 2021 年）と比較しても低

い。未給水世帯では、飲料水を遠方の水補給所から割高な値段で購入することが生計上の負担であるとともに、雨水、川、湧き水等の水源からの水利用は、適切な処置がなされておらず、腸チフス、コレラ等の水因性疾患を罹患する原因となっている。MCWDは、給水区域内において既設水道管への新規の戸別接続を実施しているが、施設整備が追い付いておらず、依然として給水普及率は低い状況に留まっており、地域の安定的な発展を支えるためにも MCWD の更なる給水能力の増強及び給水区域の拡大が求められている。

本計画は、コタバト市において、上水道施設の整備を通じて、安全かつ安定的な給水サービスの拡充を図り、もってミンダナオ和平を後押しする地域全体の開発に貢献する。また、既設の浄水場は、支川等を水源としており、洪水時に取水できずに断水が発生するなど災害に脆弱な状況であるため、幹川であるタモンタカ川を取水源とする浄水場は、災害時におけるライフライン維持の観点からも必要性が高い。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容

ア) 施設、機材等の内容：【施設】取水施設、浄水場、配水池、配水管。給水量 6,000 ~11,000 m³ を想定。

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容：詳細設計、入札補助、施工・調達監理/運転維持管理の技術指導、経営・財務研修の実施等

② 期待される開発効果

新設浄水場の整備により、給水能力が約 6,000~11,000m³/日(目標値)増強され、コタバト市内の給水人口が3~5万人増加(目標値)することにより、安全な水へのアクセスの向上に貢献することが期待される。

③ 計画実施機関／実施体制：コタバト都市圏水道区 (MCWD)

④ 他機関との連携・役割分担：特になし

⑤ 運営／維持管理体制：コタバト都市圏水道区 (MCWD)

(2) その他特記事項

- 環境社会配慮カテゴリ分類：B
- ジェンダー分類：GI (ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件)
- フィリピンの所得水準は相対的に高いことから、「所得水準が相対的に高い国に対する無償資金協力の効果的な活用について」に基づき、無償資金協力の供与の適否について精査が必要である。本計画対象地域であるミンダナオ地域は、長年の紛争により貧困率が高く、社会経済開発も遅れ、基礎インフラである安全な水へのアクセスが整備されていないため、人間の安全保障の観点から、本計画を通じた、個人の尊厳、生命、生活に対する脅威への対応が必要(「人道上のニーズ」)。
- コタバト市は「紛争影響地域」となっており、外務省渡航レベルはレベル3であるため、事業実施機関や事業実施者との情報収集・連絡協議体制の構築に加え、セキュリティ会社と協力をしながら関係者の身の安全の確保に努める。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

- フィリピン向け無償資金協力「地方都市水質改善計画（2008 年度事後評価済）」では、先方負担事項であるコンポーネント（老朽管更新）が実施機関の財務悪化により進まず、浄水場の稼働開始が遅れた経緯がある。先方負担事項の予算を水道区が借り入れる必要があるフィリピンにおいては、財務状況を含めた先方負担事項の実施能力の確認が重要であるとの教訓を得ており、本計画では実施機関の財務状況及び実施能力について特段問題は生じていないが、詳細は協力準備調査で確認する。

以 上

別添資料 地図「コタバト市における上水道整備計画」

